

日本基督教団
柿ノ木坂教会

牧 師 渡邊 義彦
協力牧師 松下 恭規

教会報

194号 2019年7月28日

〒152-0022

東京都目黒区柿の木坂

1-31-19

電話：03-3717-3870

Fax：03-3717-3916

巻頭言

「神が選ばれ、神へと立ち帰る」

——テサロニケの信徒への手紙—第1章4節——

牧師 渡邊 義彦



神に愛されている兄弟たち、あなたがたが神から選ばれたことを、わたしたちは知っています。(新共同訳聖書)

テサロニケ教会は、使徒パウロのヨーロッパ伝道で2番目に建設された教会です。パウロたちのヨーロッパ伝道、第1号の建設教会であるフィリピ教会の土台を据え、教会の責任を託すことのできる兄弟姉妹たちに委ね、テサロニケへと伝道を進めて、ここにもキリストを救い主と信ずるために選ばれた人々を見出し教会の土台を据えました。テサロニケ教会の基礎を据えて、程なくパウロは伝道を進めます。ベレアから南へ、アテネ、コリントへと道を進めて教会を建ててゆきます。テサロニケ教会を建設してのち、使徒たちはこの伝道旅行をコリントにまで進めて、ここからテサロニケ教会に宛てて手紙を送ったであろうと考えます。テサロニケを離れからまだあまり月日の経っていないときです。

この手紙を読むと、テサロニケ教会と使徒パウロたちの関係は、フィリピ教会と同じように、ほんとうに良い関係にあったことがわかります。テサロニケ教会の兄弟姉妹たちが、パウロたちの宣べ伝えた福音に、キリスト者としての生き方に、従順に、懸命に生き続けていることを、手紙冒頭からパウロは称賛し感謝しています。おそらく、パウロたちがテサロニケの町を発つてすぐに教会は迫害を受

けたのであらうと思います。使徒言行録のテサロニケ伝道報告では、ヤソンというテサロニケ教会の責任者が福音を宣べ伝えたことの原因で逮捕されています。福音伝道に対する妨害、迫害の中、生まれたばかりの教会はだいたいどうぶか、信仰を保ち続けることができるか、それはパウロの当然の祈りであつたでしょう。

手紙を読み進めますと、教会の様子を確かめるために、テモテが、コリントにまで伝道を進めていたパウロのもとから、テサロニケに遣わされたことがわかります。そして、テモテは、テサロニケ教会の報告を持って帰ってきます。テサロニケ教会は、生まれたばかりの若い教会でありながら、キリストを救い主として信じることに堅く立って信仰を守り、キリスト者として証しし生きることに従順に、懸命に歩んでいるという報告がテモテからパウロに届けられます。教会が守られていることへの感謝が、この手紙の冒頭から溢れるように記されてゆきます。

神が、テサロニケの町に、御自身のもの、キリストのものとなる兄弟を、姉妹を選んでくださっていたことが確かであったこと、神が御自身の民を選ばれたことは、テサロニケ教会の兄弟、姉妹たちが信仰を堅く保ち、キリスト者としての生き方を堅持することに明らかにされていること、彼ら、彼女たちが、キリスト者とされたはじまりに、神ではない

ものを大切に作る生き方から、神だけを神とすることへと、神へと立ち帰ったことが今も守られ、続けられていることを知らされた喜びが、パウロにこの手紙を記させています。

テサロニケの人々は、パウロたちの語る福音に聞き、またパウロたちのキリスト者としての生き方に触れて、パウロたちが信じているように信じ、パウロたちが生きてるように生きてみたい、と思ったのでしょう。

わたしたちも、それぞれ一人ひとりに与えられたユニークな仕方でキリスト者たちに出会い、福音を聞き、キリスト者としての生き方を知りました。キリストが伝えられることに人が介在しています。この仲立ちをする者たちは選ばれた人々です。自分が選ばれたことを自覚しているかは、はじめには問題ではありません。神が選ばれた人々を用いられるのであって、救いの御業を進められるのです。神が選んでくださったことに、人は選びにお応えして救いの御業に参加します。愛する人々に福音を伝え、証しし、神の祝福を届けます。

ときとして、福音伝道は、拒否に遭い、無視されることもありましょう。しかし、神が選ばれた土地には、神が選ばれた人々には、福音はしっかりと根付き、わたしたちの想像だにしない実りをもたらします。選ばれた人々は、わたしたちがそれと気付くよりもはるか以前から、いやわたしたちが母の胎に宿るよりもはるか以前であってさえも、神が御心に留め選んでいてくださったことに気付かされて、神に聞く者となり、神を見る者となります。キリストのものとされた人として、人々に聞かれ、見られるものとなるのです。それは、必ずしも、わたしたちにとって快い聞かれ方、心地よい見られ方だけではありません。拒否に遭い、無視されて、ときに迫害を受けることもあるでしょう。しかし、御言葉は、世界の拒否に、迫害に耐えてきました。御言葉は必ず実を实らせ救いをもたらしてきました。御言葉は神の言葉であるからです。

迫害に耐えるテサロニケ教会の兄弟姉妹たち、どのような困難、苦難に直面しようとも。なおい使徒パウロたち、彼ら、彼女らの忍耐と力の原動力は、キリストの十字架の贖いであり、キリストの死からの復活であり、そして、キリストがわたしたちを救ってくださったことが完全に明らかになる時が必ず来る、キリストが再び来てくださるという確かな約束であり、これを信ずるゆえの希望です。実に大きな、決して失われない、真の希望が今の困難に耐えさせる力の源泉です。

パウロはこの手紙の結びを記さんとするところで、このように語っています。

神は、わたしたちを怒りに定められたのではなく、わたしたちの主イエス・キリストによる救いに与らせるように定められたのです。主は、わたしたちのために死なれましたが、それは、わたしたちが、目覚めていても眠っていても、主と共に生きるようになるためです。ですから、あなたがたは現にそうしているように、励まし合い、お互いの向上に心がけなさい。(第5章9～11節)

キリストのゆえにテサロニケ教会の兄弟姉妹たちにも与えられた励ましを、わたしたちもまた同じように受けて歩んでまいりたいと願います。

集会出席統計(月平均人数)

	2019年	
	5月	6月
主日礼拝	81.0	89.6
聖書と祈り会	17.8	15.0
教会学校*	109.5	108.4

* 保護者、教師を含む

(第1主日開催)	5月5日	6月2日
聖餐夕礼拝	11	6

「隠退教師を支える運動」

赤木 康子

『よろこび』第121号(2019.6.20)の巻頭に、日本基督教団副議長 久世そらち先生の『「隠退教師を支える運動」提唱者の思い』が載っています。

「初任地の旭川豊岡教会に着任した当時、90歳になる牧田健夫さんという教会員がいました。元中学校長で、また長く教会役員を務めた方です。この方が〈隠退教師を支える運動〉の提唱者でした。教団年金制度が発足して間もない頃、牧田さんは『教団新報』のある記事を目にしました。ひとりの隠退教師が生活に窮し、教団に相談に来た。しかし教団年金の受給対象にならないとの説明を受け、肩を落として帰っていったとの内容でした。」久世先生の文章には、牧田さんに洗礼を授けた旭川の教会の三上豊牧師の戦中戦後の困難な牧会の生活も紹介されています。「三上牧師は敗戦から1年半後牧師館で亡くなりました。…栄養失調の診断でしたが、餓死というべきありさまだと伝えられています。」「心を痛めた牧田さんは、隠退教師を支えるため毎月100円の献金を教会員に呼びかけます。それが道北地区に広がり、北海道地区内に広がり、ついに1978年の第20回教団総会の決議をもって教団全体の取り組みとなったのです。」「当初は教団年金を受給できない方がたを支えることを目的としていましたが、今日ではその目的を広げ、年金掛け金・〈謝恩日献金〉とならんで教会年金制度そのものを支える大きな力となっています。」(以上かぎ括弧内原文引用)

「どなたか引き受けてくださらないでしょうか。柿ノ木坂教会では〈隠退教師を支える運動 100円献金〉が休止状態になっています。取り扱ってくださっていた方のご都合で止まってしまって。大切な運動ですからね。」と勝田英嗣牧師がおっしゃったのは、2004年度末の長老会でのことでした。棟居正さんが、「僕でよければやりますよ」と名乗り出られました。「お金を取り扱う仕事だから、一人じゃまづいですね。誰かほかにもう一人やってくれ

る人はいませんか。」と促されて「私でよろしければ」と答えたのが赤木でした。

教会員の皆様にとどのように呼びかけて、柿ノ木坂教会で100円献金が復活したのでしょうか。勝田先生が週報で淡々と、しかし、真心こめて、呼びかけてくださったのだと思います。オレンジ色の献金袋を会員の週報ケースに入れました。私は、自分の部屋の机の引出に、送金した時の受領証と事務所から来た領収証をすべて保管しています。2005年8月3日の日付のある最初の送金の振替払込受領証には、57,500円とあり、川崎土橋郵便局の消印があります。棟居さんがその年の4月から7月の献金をまとめて送金された時のものです。棟居さんは主日毎に献金を持ち帰り、エクセルの表を作り、献金主と金額を記入し、件数と累計を確かめ、預かったお金を3~4か月分ためて推進委員会の事務局に郵便局から送金しておられました。私はそのデータをメールで送っていただき、確認の上、パソコンに保存していました。データを共有し、どちらの具合が悪くなくても困らないように。3年目からの受領証には尾山台や深沢郵便局の消印があります。このころ、棟居さんと私は役目を交代したようです。二人がともに礼拝を欠席することはなかったと思いますが、暑い8月は例外、毎夏、鶴田真希さんにお世話になります。副産物、この献金のおかげで私はエクセルの使い方を習得し、以後大いに役立っています。

不思議なことに、引退教師を支える運動100円献金に関しては、教会員の祈りと真に自主的な献金に支えられて、係となつてから、宣伝？した覚えがないのです。毎月欠かさず100円を捧げる方、1年1回大きくまとめて捧げる方、年に何回かに分けて捧げる方、毎回同じ額を捧げる方、額が毎回変わる方、百人百様ですが教会としてかなりまとまった額を毎年お贈りできるのは何という感謝でしょう。誰に教えられなくても、隠退教師への感謝は私たちの心に満ち溢れている証だと思います。ますます励んでまいりましょう。

「わたしの好きな御言葉と讃美歌」

中村 知実

私は、小さいときはキリスト教とは無縁の生活を送っていました。幼稚園は仏教で、花祭りには甘茶を飲んで喜んでいたくらいです。

キリスト教との出会いは恵泉女学園中学入学式の時です。ヨハネ福音書 15 章 16 節、ブドウの木の例え話です。

「あなたがたが私を選んだのではない。私があなた方を選んだのです。あなたがたが外に出て行って実を結び、その実が残るようにと、また、わたしの名によって父に願うものは何でも与えられるようにと、私があなたがたを任命したのである。互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である。」

学校生活のスタートにふさわしい箇所です。この聖句は、私の心の中に強く残る聖句です。

中学最初の聖書の時間です。「新しい讃美歌を歌うときに番号に丸をつけましょう。」礼拝のあとに丸をつけるのが習慣になって、高校に進学する頃には、たくさんの番号に丸がついていました。その讃美歌（54年版）は、今も自宅の本棚にあります。

「あなたの若い日にあなたの造り主を覚えよ」恵泉は女子校ということもあってか、宗教と奉仕の時間を、とても大切にします。

クリスマスの頃には希望者を募って、近隣の高齢者ホームと施設に奉仕にうかがいます。中学生は「人のために働く」「心をこめて取り組む」ことを学びます。他者との関わりを経験することは、キリストを知ることに繋がります。

「あなたの若い日にあなたの造り主を覚えよ」私の大好きな聖句です。

学校では高校3年生の2学期はじめに、学園生活の締めくくりとして、3年生全員で2泊3日の全体修養会に出かけます。大学受験を控えているのに、ずいぶんノンビリしているなあ？とっていました。

しかし、この修養会2日目の夜の静寂の時間に、私は不思議な体験をしました。八ヶ岳の自然に囲まれ、何も考えずに目を閉じて横になっていると、なんとなく呼ばれている感じがしました。騒々しい都会を離れて、聞こえるのは、虫の鳴き声、草の触れあうカサカサという静かな音。気持ちのよい風がやさしく吹いて、穏やかな心地よい感じがしました。静寂の時間が終わりロッジの部屋に戻り、何気なく聖書を開くと「荒れ野で叫ぶ者の声がする。『主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ』」（マタイ福音書3章2節）とありました。そのまま気にせずに聖書を読み進めると、同じ聖句が飛び込んできました。（マルコ福音書1章3節）ああ！私は呼ばれている！

そうして高校3年生のクリスマスに、小川先生から洗礼を授かりました。

高校卒業後はもともと植物の勉強をしたかったので、恵泉短大園芸学科に進学しました。

園芸学科はアメリカのウィメンズホーティカルチャーカレッジをお手本にしていました。そのため、キャンパス内の女子寮で上級生も下級生も寝食を共にして、学園生活を送ります。当時としては、かなりユニークなスタイルだったのでは？と思います。結局、私は8年間を恵泉で過ごしました。特に短大の2年間は、社会に出る前の準備期間のような実り多い2年間でした。

園芸学科の生活は、朝の礼拝に始まり、午

前中は授業。午後は実験と栽培実習。野菜や花の世話をしていると自然に讃美歌を口ずさみたくなります。植物の小さい芽が出て、茎を伸ばし、葉をつけてスクスク育つ様子は本当にいとおいしいです。よく歌ったのは、54年版讃美歌の503番、

「はるのあした、 なつのまひる、
あきのゆうべ、 ふゆの夜も、
いそしみまく、 みちのたねの、
垂穂となる ときたらん。

かりいるる 日はちかし、
よろこび待て そのたりほ。
かりいるる 日はちかし、
よろこび待て そのたりほ。」

実習の休憩時間で、秋の収穫感謝祭礼拝で、友達と元気に歌った楽しい思い出のある讃美歌です。

なかでも3番の歌詞は、私のお気に入り。

「憂きつらさも 身にいとわで、
みちのために たねをまけ。
ついにみのる そのたりほを、
神は愛でて みそなわさん。」

マルコ福音書の、からし種のたとえ話を思い浮かべます。やはり園芸学科出身ね。と笑われそうですが。

結婚後は転居で八雲を離れたこと、子育てに追われたことで教会生活を送れない時期も長くありました。今年で柿ノ木坂教会に戻って10年くらいになります。

教会生活を再開した頃は、喜びが大きくて本当に感謝でした。しかし、何年かたった頃、教会生活に疑問を感じるようになりました。これは誰でも経験することだと思います。

それが私の場合、なんと病気という形であ

らわれました。事情を理解していただき、半年間の治療に専念しました。治療中は皆様に、たくさんの美しいメッセージカードと聖書の御言葉、そして祈りをいただき励まされました。副作用で苦しい時も、心が折れる事無く、無事に治療に専念できたのは感謝です。幸い術後の経過は順調で、体力の回復をみながら教会生活を再開したとき、日本キリスト教協議会のお仕事を紹介されました。やっと少し慣れて、何とかこなしています。

このように色々大変なこともありましたが、いままでの生活は喜びに満たされていたと改めて感じています。

最後に私の大好きな讃美歌。これは恵泉創立者の河井道先生の愛唱讃美歌でもあります。54年版讃美歌302番です。

「み神の風をば 帆にはらみて、
今日しもわが船 いでゆくなり。
さからう風にも おおなみにも、
みたすけ仰ぎて いとやすけく」

実に、勇気のわいてくる讃美歌です。



「2019年アジア学院からのホームステイ報告」

平岡 昭子・南 浩子

「アジア学院ホームステイ」

平岡 昭子

毎年、6月の第1土曜日には、栃木県那須にあるアジア農村指導者養成専門学校「アジア学院」から研修生が各教会にやってきます。日本が初めて～という研修生たちに婦人会連合が40年も前からホームステイのプログラムを提供しています。今年は24名（14か国）が各教会に迎えられて、2泊3日のホームステイを楽しみました。

私はこのプログラムが大好きなので、もう何年も前から参加してきましたけれど、そろそろ、若い方にバトンタッチする方がよいと思っていました。早速去年は、江島香織姉が喜んでお一人受けてくださり、秋の収穫祭には那須まで会いに行かれたほど仲良くなりました。

そして今年は、ベテル幼稚園の南浩子先生がご主人とけいた君を巻き込んで、ケニアのデニスさんを受け入れて、それはそれはよい交流をされました。

もう一人、我が家にステイしたのは日本人の眞木凌君、希望にあふれる23歳の青年でした。日本の若者が世界の若者たちに交じてこんな

に真剣に農業に取り組んでいることを知って感動でした。同じ年代の我が家の孫息子が影響を受けそうな勢いでした。

日曜日はデニスさんと一緒に一日中教会で過ごし、昼食会をしました。第1聖日は各委員会があるので、出席者は限られるのですが、それでもいつも青年会が協力してくれて今年も大変良い昼食会を持ちました。宗教、教会、ケニア、家族・・・日本語が通じる今年は様々な話題が飛び交って、最後に踊るケニアの讚美歌・・・けいた君の踊りは拍手喝采。



ホームステイに小さい子供がいると本当に場がなごみます。シニアのホストが多い中、けいた君の存在は貴重で、婦人会連合のお世話役をどんなに喜ばせたことでしょう。

幼稚園が始まった月曜日、忙しい浩子ママを助けてデニスさんをキリスト教会館まで送って下さった舛田京子姉の協力も教会ならではのうれしい連携でした。

来年は・・・と書いていらっしゃる方は、どうぞいみ会までお申し出ください。きっと神様がよい出会いを備えていてくださいます。



「留学生を迎えて」

ベテル幼稚園 南 浩子

平岡さんのご紹介で初めての参加でしたが、誰も英語が話せない我が家の無謀なチャレンジ・・・わずかな英単語とボディランゲージにGoogle翻訳を駆使。思いのほかコミュニケーションがとれて、とても充実した3日間でした。(英語NGで受け入れをためらっている方におススメします！概ね問題ないです！)



我が家に迎えたケニアの方は、私と同世代で3児のパパ。末っ子の女の子と月齢が近いこともあり、息子をとっても可愛がってくれました。(日本語が喋れない同士で意気投合)

日常生活に触れてもらえたらと考えると、夕飯の

材料を買い出しがてら近所の商店街を散策し、一緒に料理もしました。華やかな包丁さばきはアジア学院の寮生活で培ったのだそう。メニューはお好み焼き、日本のB級グルメも口に合ったようです。

平岡さん宅にステイしたのが日本の方だったので、全ての命を無駄なく循環する本気の有機農業を学ぶ「アジア学院」についても詳しく知ることができました。また、ケニアで流通する食品はほぼオーガニックで、数年前からプラスチック製品の使用が原則禁止となっていることも聞き、日本とのギャップにとっても考えさせられました。

こうして真面目な話題もありましたが、とにかく明るく楽しい3日間、素晴らしい機会を与えられたことに家族一同感謝しています！



☆☆☆ 教会の行事 ☆☆☆

◇今まであったこと

6月の伝道月間：2日は柿ノ木坂教会渡邊義彦牧師、9日は同協力牧師の松下恭規牧師、そして、16日は洗足教会の洪徳憲（ほん どっき）牧師、23日は東京神学大学 学長代行の芳賀力（はが つとむ）先生、30日は明治学院の北川善也牧師をお迎えしての礼拝だった。

← 23日午後、愛燦会でお話になる芳賀先生



◇これからの予定

7月28日(日) 公文和子姉(海外在住会員・ケニアの障がい児施設 シロアムの園代表・小児科医)による報告会が行われる。

「声なき心の声に耳を傾ける～特別な一人一人が共に生きるということ」

- ・午前：CS 礼拝後分級時間帯：小学科、JC、保護者対象
- ・午後：いずみ会主催：教会員対象

8月4日(日)～6日(火) CS]小学科丹沢サマーキャンプ

8月25日(日) 13:00～CS 幼稚科デイキャンプ

今月のメッセージ

— ホームページページ巻頭言 —

ホームページには多くの情報が掲載されています。

ぜひご覧ください

<http://kakinokizaka-church.com>

しかし、急いで出る必要はない
逃げ去ることもない。

あなたたちの先を進むのは主であり

しんがりを守るのもイスラエルの神だから。

(新共同訳聖書・イザヤ書 52 章 12 節)

今年度、幼稚園一学期の途中から、子供たちが登園してくる時間に教会角の路地のところに毎朝、園長が立つことになりました。幼稚園によっては、教会幼稚園として登園してくる園児を門のところで牧師・園長として迎えるのは当たり前だということも多くあることでしょう。これまで、ベテル幼稚園では門のところには、主任なり、教師なりが毎日立って子供たちを迎えていましたので園長・牧師の立つ出番はありませんでした。この五月末、子供たちを巻き込んだ川崎での痛ましい事件があってから、門のところのみならず、教会角の十字路のところにも見守りに立つことが子供たちの安全のために必要だと教師たちの判断で、はじめて出番となったのです。

朝の仕事の手順の修整にあたりましたが、毎朝なかなか新鮮なことでした。子供たちの様子も毎朝違います。昨日は何かぐずりながらやって来たのに、今日は息急き切って元気に園庭へと走り込んでいたり、保護者がたのみならず、毎朝、十字路を右に左にと通ってゆかれる近所の方たちと挨拶を交わすこともだいぶ増え

ました。はじめて与えられた立ち位置に新鮮な毎日でした。夏休みが始まって朝の見守りも一段落です。

わたしたちは人生の中でいろいろな立場、立ち位置を与えられます。進んでその立場につき人も、それがずっと同じ人も、人に強いられて、ときとして強制力によって本人の意思とは関係なく立ち位置を変更させられて、そこに立たなければならないことさえあります。

このことをいづれにしても、主が、わたしたちを召しておられると、信仰をもって覚えるならば、主が、最もふさわしい立ち位置をわたしたちに与えてくださると信ずるのです。それが、わたしたちにとって好ましく居心地が良いところであろうと、たとえわたしたちにはふさわしくない、いや、いたくないとさえも思えるところであっても、主がわたしたちをここに生かしていただくことの意味を知り、覚えるのです。

どのような立場にわたしたちが立つときも、主が、わたしたちの先頭となり、最後となってくださってすべてを守ってくださいます。主の御守りのもとに、わたしたちの人生が置かれていることを覚えることができるならば、それは幸いなことです。

(牧師 渡邊 義彦)

—— 編集後記 ——

- ・「隠退教師を支える運動」の経緯を読むにつけ、私達教会員が支えなければならない、大切なわざを改めて感じました。
- ・「伝道月間」の準備・実施でご苦労された教会員を、神様がねぎらってくださいますように。
- ・「私の聖句・讃美歌」、ミッションスクールの大切さを思います。教会との連携が進みますように。
- ・今年もアジア学院の留学生のホームステイに協力された方々。教会の礼拝にお迎えしての昼食会も楽しいものでした。ホストファミリーになる新しい方々が増えるといいですね。
- ・教会報へのご意見、ご感想をお寄せください。

(編集委員長 井澤浩一)

集会案内

主日礼拝 日曜日 午前 10 時 30 分

聖餐夕礼拝 第 1 日曜日 午後 5 時

入門講座 日曜日 午前 9 時 30 分

教会学校 日曜日 午前 9 時

(幼稚園科、小学科、ジュニアチャーチ)

*ジュニアチャーチは中学生、高校生です。

聖書と祈り会 水曜日午前 10 時、午後 7 時 30 分

日本基督教団 柿ノ木坂教会

〒152-0022 東京都目黒区柿の木坂 1-31-19

電話 03-3717-3870 (教会・牧師館)

03-3723-3870 (ベテル幼稚園)

牧師 渡邊 義彦

協力牧師 松下 恭規